

## (1) メダカ (ダツ目メダカ科)

### ① 分布

流域の全集落

### ② 主に見られた場所

水路, 池, 田など

### ③ 採録した呼び名

- ・ 共通 メダカ (全集落)
- ・ 上中流域 コバヨ, シシコ, チンチコ, チンチロ, チンチン, チンチンコ, チンチンコバ, チンチンコバイ, チンチンコーバイ, チンチンコボ, チンチンコーボ, チンチンコマイ, チンチンコマレ, チンチンバヨ, ミジシコ, メンチョ (亀山市中庄町より上流域の集落)
- ・ 中下流域 メバイコ, メバイチョ, メバエ, メバンコ, メバンチョ, メマイコ, メマイチョ (亀山市下庄町上古屋より下流域の集落)
- ・ その他 (アルビノ等) キンメダカ, コガネメダカ



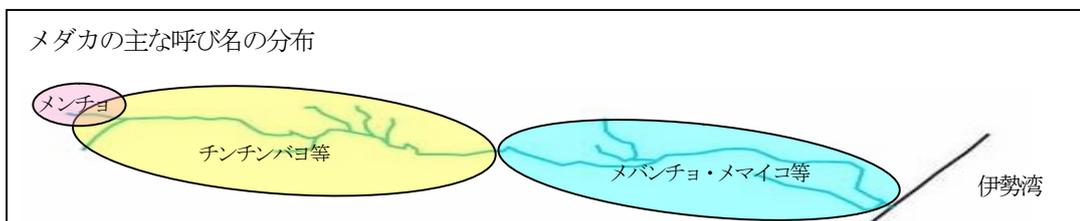
### ④ 分布と呼び名について

流域の水路, 池, 田といった水の流が緩やかな所又は止水域でよく見られたという。

呼び名としては、標準和名である「メダカ」をはじめ、ほぼ集落ごとに少しずつ異なる計26種を採録した。この中には、アルビノ又はヒメダカとみられるメダカの呼び名が2種含まれる。(但し、この2種は1935年当時の呼び名かどうかは明確ではない。)

中ノ川流域におけるメダカの昔の呼び名は、大きく分けて2系統あり、現在の亀山市下庄町上古屋と中庄町との間で大きく分かれる。また、最上流域の「メンチョ」という呼び名は隣接する鈴鹿川流域の影響と考えられる。

なお、これらの呼び名は集落によりカワムツ, オイカワなどの稚魚を含めた小魚の総称となっていた場合がある。



### ⑤ その他

東京近郊の地方名のひとつであった「メダカ」という呼び名は、標準和名となり学校教育などにより1935年当時には既に流域の集落で一般化した呼び名となっていた。しかし、当時の子ども達の間では昔から伝わるこうした呼び名も各集落で使われていた。

メダカの昔の呼び名を記憶するのは主として70歳代後半より年上の高齢者であり、こうした人々も長年「メダカ」と呼び慣れており、昔の呼び名の採録には時間を要した。

## (2) ドジョウ (コイ目ドジョウ科)

### ① 分布

流域の全集落

### ② 主に見られた場所

川, 水路, 池, 田など (土気の所)

### ③ 採録した呼び名

- ・ 共通 ドジョウ (全集落)
- ・ 稚魚 ドジョーゴ
- ・ 大型魚 ドンキュウ



・ その他 ドウジョ、ドジョ、ドンジョ

④ 分布と呼び名について

流域の川、水路、池、田など土気が多い水辺でよく見られたという。

呼び名としては、標準和名である「ドジョウ」をはじめ、稚魚、大型魚のものなど計6種を採録した。

大型魚を表す傾向にある「ドンキュウ」は上流域の一部の集落と下流域を中心に採録され、稚魚を表す「ドジョーゴ」は散発的にみられた。

「ドンジョ」は旧榎尾村を中心に採録されたが、鈴鹿川流域の影響と考えられる。



⑤ その他

1935年当時には標準和名である「ドジョウ」が、学校教育などにより流域で一般的な呼び名となっていたようである。「ドウジョ」、「ドジョ」は昔からの訛と考えられる。

また、アルビノのドジョウと考えられる赤いドジョウも見られたようで、中には群れて見られたという話が聞かれた。

なお、鈴鹿川流域のいくつかの集落で聞かれた20cmを超える大型ドジョウについても併せて確認をしたが、生息情報はなかった。

## (2) -2 シマドジョウ (コイ目ドジョウ科)

① 分布

流域の全集落

② 主に見られた場所

川、水路など(砂地の所)

③ 採録した呼び名

- ・ 生息場所 カワドジョウ、カワラドジョウ
- ・ 体色・捕獲時の感触 カミツキドジョウ、シマドジョウ、ハシカドジョウ、ムギカラドジョウ
- ・ ドジョウとの混称 ドジョ、ドジョウ



④ 分布と呼び名について

流域の川、水路など砂利が多い所でよく見られたという。

呼び名としては、主な生息地である川、体色や少し刺すといった特徴からのものを計6種、またドジョウとの混称を含め計8種採録した。

主な生息地である川から由来する「カワドジョウ」という呼び名が流域全体で多くの集落で採録されたほか、「ハシカドジョウ」は旧合川村を中心とした地域で、また「ムギカラドジョウ」は中流域から下流域にかけての集落で散発的に採録された。

なお、固有の呼び名がなくドジョウと混称となっていた集落もいくつかみられた。

